

東京新聞
夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

放射線
三月八日が「国際女性の日」であることをご存じだろうか。今から百

五十年前にさかのぼる。産業革命まったただなかの一八五七年のこの日、米国のニューヨークの縫製工場で働いていた女性たちが、劣悪な労働環境と低賃金に抗議してストライキを行った。国連は、第一回世界女性会議を開催した一九七五年に、同日を「国際女性の日」として宣言したのだ。以後、さまざまな記念イベントを行っている。

目的。男女のステレオタイプを打ち破るような取り組みや、女性の能力強化に尽力している男性を招く。

最近、育児をしたい男性たちが増えているという。当然だと思う。子育てというのは、親にとつては無上の喜び

だし、子どもとともに成長できる貴重な経験となる。これまでなかなか時間がとれなかった男性たち

も、女性の職場進出にあわせて家庭での役割を重要視

国際女性の日



一方で、企業の側も、女性を幹部職に登用したり、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の拡充を図ったりしている。女性が生き生きと働いている職場は、企業や日本経済にもメリットをもたらす。ニュースで、大企業の取締役会や業界団体の集まりの映像をみると、スーツ姿の男性ばかりで、まだまだだなあと思うことも多いのだが。

(池上 清子 国連人口基金東京事務所長)

今年の日本でのシンポジウムは「男性の意識改革」が注